

1. 出席していた1, 2回生と、どのようなやりとりが印象に残りましたか？

- どこに行きたいかよりも、やりたい対象をどの学問で研究すべきかという質問。
- 大まかにやりたいことはあるが、どこに行くのが最適かについて思案している様子。
- 「〇〇専修とはどんなところですか」「〇〇と△△専修で迷っています」等、自分の経験や大枠をふまえた質問が多かったのが印象的でした。
- 知識のない相手に上手に説明するのが難しかった。
- 専修が決まっている人と決まっていない人がいた。ようやく大学生活に一区切りついて安心している人も多かった。
- 学生の勉強量によって、話のしやすさに違いがあった。
- 系紹介の後に、説明をきいて声をかけてくれた一回生がいたので、嬉しかったです。皆さん意外と興味関心がしっかりしていて驚きました。
- 国語国文と言語の各専修のどちらが自分のやりたいことに近いのか分からない、という学生が多かった。
- 一回生でも率先して準備してくださる方がいた。
- ギリシア・ローマに興味をもってくれる生徒と、どの専修に進みたいのか、ということが聞けたことがよかった。また文学部の専門の授業について興味をもって聞いてくれた点。
- 専修については、すでに研究室で詳しく説明を受けている。一回生が多く、主に雑談をしていた。
- 自分のときより、真剣な考えを持っている人が多く、身が引き締まる思いがした。
- 院生の私に対して、取り組んでいる研究テーマや研究室全体の研究傾向についてかなり積極的に質問があり、印象に残った。
- 学部ガイダンスなので当然かもしれませんが、専門科目の授業内容の話に強い興味を持っていたように思います。
- 自分の専修で来られる人の、専修で何をやるのかという疑問や卒業後の進路についての質問。
- どんなことを学べるか。こういうことをやりたいけれど、できるか、といったようなこと。
- 所属する系や専修、研究室の紹介など。
- 自由選択科目の選び方に関して、他の三回生が有意義なアドバイスをしていたのが印象的でした。
- こういう研究はしていいのか？などやりたい研究が明確に決まっていたこと。
- 好きな文学について思っていたよりも深いやりとりができた。知的好奇心が豊富なのだ

と感じた。

- 学問の境界領域にいる子が、どちらの研究室に進めばよいか迷っている事が印象的だった。
- 「将来国際協力がしたい」
- 以文会について。同窓会の役目は就活支援なのか、せっかく大学出るんだから、他によることあるのでは。社会に物申すのが大学人なのに、社会への順応を手伝ってどうする。講演会でも主催した方がまし。教室に置かれていたビラ（キャリアサポート in Tokyo のものか分からないが）に電通。営利企業ってこわいね。
- 授業のジャンルや読んでおくべき作品を問われたこと。

II. 1, 2回生に対して、どのようなサポートをするのがより望ましいと思われますか？

- その時期に応じて1、2回生が求める情報を得られる場を設けるべきではないだろうか。専門に関する模擬授業などがあると嬉しい。
- 歓迎夕食会のアナウンスが足りない。この会の存在を知らず、参加できなかった人もいるのでは。
- もっと具体的にどのような可能性があるのか、教えてあげられるとよいと思った。
- フランクにお話できるのが良いと思います。
- 専修が違うが、研究範囲が似ているケースについて扱う分野の違いに関する情報提供ができるが良い。
- Iのように、専修が違うが研究範囲が似ているケースについて扱う分野の違いに関する情報提供ができるが良い。
- 今回のようなもので十分だと考えられる。
- 体験での授業見学等ができればよりよいのではないかと思う。また、教授やその他の先生方と話す機会がふえるとよりよいのでは。
- 夏のガイダンスだけでは決まりきらないところもあるので、冬にもう一度、同じような機会を設けてはどうかと思う。
- 十分だと思います。
- 具体的な研究テーマの公開がより大々的にあるとよいと思う。
- 特になし、今のままで良い。
- 特になし。今のサポートで十分だと思います。
- 履修の組み方（般教はいつまでにとっとくと楽）等の、先輩からの生の声がきける場があるといいです。（教授がいらっしやると中々「あの先生が単位とりやすい」みたいな話できないので・・・）

- 自分が話した中だと、ある程度興味の固まった人が多かったので、研究室の内実だけでなく、興味ある分野を補強するためにも、様々な系を横断的に案内できればよいな、と思いました。
- 具体的に何をやっているのかをたくさん話して、三、四回生にむけてのイメージをふくらませる。
- 専門の授業内容を、専修案内にいくつか例をのせるなど。一回生は専門授業についてシラバスを調べることは少ないように思ったため。
- 専修の人の具体的な研究テーマを示すとよいと思います。
- 十分だと思います。
- 歓迎夕食会が開催されることをもっと大々的に告知する。
- 専修別の説明は、系ごとではなく、専修ごとに一人ずつ行った方がよいと思った。
- 目的別の専修紹介
- 以文会のあいさついらぬ。正直、学生・OB・OGの役に立っていると思えない。
- 進路指導（文学生は一般的に就活の開始が遅いため）
- 普段から研究室をオープンにして、慣れさせるべきです。
- どこに何があるのかの道案内になるとよい。
- 午前に実施されていたような研究室訪問の機会がもっとあれば、と一年生の時思っていました。

III. 歓迎夕食会に参加して、どのような感想をお持ちですか？

- 相手に具体的なイメージを持たせることができたかいま自信がない。
- 自分は一回生の時には参加していなかったが、出ておけばよかったと心から思った。
- もっと食べたかった。上回生の参加者を増やしてもいいのでは。
- 一回生とお話しできて楽しかったです。他の同じ系の人とも普段は交流がないので、お話しできて楽しかったです。
自体は大切だと思うが、一回生どうしの仲を深めたいのか、上回生からの情報を提供したいのだ、よくわからなかった。
- 会自体は大切だと思うが、一回生どうしの仲を深めたいのか、上回からの情報を提供したいのかよく分からない。ただ、それはそれで良いのかもしれない。
- 参加してくださった一回生が意外と多かった。また、他の系にも動きやすい配置だったと思う。
- かなり参加者に対してメリットが大きいものだと思う。しかし、テーブルごとの密度の差から話せた人と話せなかった人がおられたかもしれない。
- 食事の量が少なく、各専修の説明をしている頃にはほとんどなくなっていたので、もう少し増量してほしい。

- 一回生に、系を移動させる時間を設けると、より広い分野との交流が持てて良いと思う。テーブル間で人の多寡に差があるので、その是正にはなると思う。系が異なっても似た分野の研究をしている専攻は多いので、一回生としても良いと思う。
- 一回生と直接話すことができ、有意義だった。
- 学問で進んでいる一回生がいますと知りました。一回生にも様々いるのでしょう。
- 席替えなどあれば人気のない専攻も・・・
- 各テーブルのコップ、皿の数をもっと増やすべき。(歓迎夕食会に参加しようと思っている学生にあらかじめどこに行こうと思っているかのアンケートとかをとると計算しやすい?)
- 一回生が先輩に話を聞ける機会はあまりないので、今後続いていけばいいなと思いました。
- もう少しだけ食べ物が多いとよかったかも。もっと自分が分かりやすくしゃべれたらよかったです。
- 一回生が積極的に声をかけて、質問してくれた。
- はじめ、自分は一回生のときにこのような夕食会に参加しなかったのですが、どのように一回生を迎えたらいいかわからなかったが、一回生の側も自分の興味に基づいて専攻のことなどを訪ねてくれたので、有意義な時間だった。
- 予想以上の、一、二回生が来てくれるのだなど、驚きました。
- 自分は一回生の頃参加しなかったのですが、こんなに良い会が用意されているなんて流石です。
- 学年の離れた子達と会話でき、素直に楽しかった。
- 夕食が豪華で、評判が良いように感じた。
- 一回生同士もわきあいあいと話していてにぎやかだった。
- 料理の豪華さにびっくり。
- 西洋文化学系にもっと学生が来てほしい。
- 1、2回生の子達は食べていたり友達と話したりして話しかけづらかったです。
- 彼らが自分のやりたいことができるよいなと思います。
- 専修や系を迷っている一年生にとって、少しでも役に立てたなら光栄です。自身も他専修のお話を聞けて楽しかったです。

IV. 先輩相談室についてご意見、ご要望がありましたら自由に記入してください。

- 名札に使うペンをもっと太いものが望ましいかと思えます。
- メンタル面での悩みなどのサポートを充実させていただけたらと思う。
- 場所がよく分からない。

- 夕食会開催ありがとうございました。
- 語学うんぬんの話は、恥ずかしいのであまり大きく言わない方がよいように思います。
- とても良い制度だと思います！